



No.84 2020.10.19

明石市コミュニティ・スクールだより  
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

## コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

### Meet de 対話 Part2 No.1

#### 熊本市 ICT 教育タブレット端末を活用した授業実践動画を通して考えたこと

10月13日(火)15:30より Meet de 対話 Part2 の第1回目を開催しました。今回の Meet de 対話は10/13・20・27の3回で「熊本市 ICT 教育タブレット端末を活用した授業実践動画」を視聴して感じたこと、考えたことを柱にして対話をしましょう」と呼び掛けたところ20名をこえる申込をいただきました。年齢層も若手からベテランと幅広く、また中には3回通して申し込んでいただける方もおられ、少しずつこうした対話が広がっていきなと思っています。本対話はタブレット端末を切り口としてこれからの学びの中で、今後求められる資質・能力を育成する学びのデザインを考えていけたらと思っています。タブレットの導入に対しては保護者の方や地域の方も関心を持っておられ、期待されていると思います。持たれている期待を信頼に高めていくためにもこの「Meet de 対話 Part2」をきっかけに各校でタブレットを切り口に今後求められる資質・能力を育成する学びのデザインに向けての対話が始まればいいなと期待しています。第2回・第3回に参加してみたいなと思われたらご連絡ください(学校教育課 本所・北本)。Meet の参加コードを送付させていただきます。



信頼・不信バロメーター



(文責:北本)

### 「Meet de 対話 Part2 No.1」の対話をとおして

「Meet de 対話 Part2 No.1」に参加いただいたみなさん、進行にご協力いただきありがとうございます。今回は学校教育課の本所が進行を務めました。

進行の立場から「Meet de 対話 Part2 No.1」を振り返ります。

**まず参加される方の人数が多いことに驚きました**

今回の「Meet de 対話 Part2」は、事前に「熊本市 ICT 教育タブレット端末を活用した授業実践動画」を見ていただいた上での参加を呼びかけていました。それによって、参加される方も少なくなるのではないかと懸念していました。ところが、前回の「Meet de 対話 Part1」よりも多い先生方に参加希望をいただきました。タブレット端末の導入に向け、先生方の課題意識が高まっているのだろうと想像していました。実際の対話の中でも、参加されたどの先生もご自身の課題をもっておられましたし、その解決に向けての方策を見つけ出そうとされていました。

## 機器的な操作等がとてもスムーズでした



Meet やZoomを用いたオンライン会議等では、会のスムーズな進行や目標の達成のために、お一人お一人の機器の適切な操作が「カギ」となります。今回参加いただいた先生方には、機器の操作に最新の注意をいただき、ご自身が話をされる時を除いて、確実に「ミュート」ボタンを押していただきました。進行を務める立場としては、大変有難く思い

ましたし、オンラインを用いた会議等では、このような些細なことが大変重要だとあらためて実感いたしました。事務局として、機器の活用について一つの提案をさせていただきました。

Jamboard の活用です。対話で出された皆さんのご意見等を「見える化」するためのツールです。これを活用することによって、対話の途中で内容を整理したり、遅れて参加された方に話し合った内容を伝えたりする場面で大変効果的です。

## 校内研修の推進の仕方について

対話の中で、タブレット端末の活用について、校内研修の進め方が話題になりました。ある学校の先生からは、「熊本市 ICT 教育授業実践動画」を全職員で視聴されたという取組をお話いただきました。また、ある先生からは「タブレット端末の研修は校内のどの分掌の先生が中心となって推進していくことが望ましいのか。」という疑問が出されました。それについても、「校内研修の担当が行っている。」というご意見や「分掌にかかわらず、使ってみて“よい”と思った職員からの発信で行ってもよいのではないか。」という意見も出されました。校内の先生方に機器の使い方と合わせて、ICT機器を用いて教育活動がどのように変わるのかというような啓発を行っていくことの必要性も出され、意味深い議論となりました。

## 先生方の意識の高まりについて

タブレット端末導入を控え、それぞれの学校での先生方の意識の高まりについても話題になりました。前出の校内研修とも関連しますが、研修を通して、先生方の意識の高まりが少しずつ見られる学校、まだそこまでの高まりは見られない…など様々な実態が挙げられました。ICT機器の環境も整備されつつあることも先生方の意識の高揚につながっているとの報告や、ICT機器の活用によって「学校が確実に変わってきた。」という力強い報告もありました。

## 自身の課題・・・

参加していただいた先生方に少しでも多く発言していただき、対話を深めていきたいと願って進行にのぞみましたが、円滑に話をつなぐことができず、ぐったりと疲れてしまいました。オンラインで、コーディネートが上手くいかず、皆さんの発言が得られない場合、皆さん「ミュート」されているので、ただならぬ「沈黙感」が漂い、タイル状に並ぶ皆さんに見られていることがとても辛かったです(笑)。ある先生が最後の感想で「オンラインだととても話しやすい。」と言われていたことがとても印象に残っています。そのようなこともオンラインの利点であることを実感しました。そのような利点をしっかり生かせるよう、また進行にチャレンジさせていただきたいと思っています。

(文責:本所)